



平成27年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年12月24日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 パルコ

コード番号 8251 URL <http://www.parco.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 牧山 浩三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役財務部、経理部、事務統括部担当 (氏名) 野口 秀樹

TEL 03-3477-5791

四半期報告書提出予定日 平成27年1月7日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年2月期第3四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年2月期第3四半期	197,300	1.7	8,834	1.6	8,811	2.9	5,045	5.2
26年2月期第3四半期	194,069	0.1	8,698	18.5	8,560	23.7	4,793	26.4

(注) 包括利益 27年2月期第3四半期 5,026百万円 (△5.6%) 26年2月期第3四半期 5,323百万円 (39.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年2月期第3四半期	49.73	—
26年2月期第3四半期	47.25	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
27年2月期第3四半期	234,712		112,023		47.7
26年2月期	220,757		108,823		49.3

(参考) 自己資本 27年2月期第3四半期 112,023百万円 26年2月期 108,823百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	円 銭	
26年2月期	—	9.00	—	9.00	円 銭	18.00
27年2月期	—	9.00	—	—	円 銭	—
27年2月期(予想)	—	—	—	9.00	円 銭	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年2月期の連結業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	272,000	2.9	12,300	0.8	12,150	1.1	6,800	0.3	67.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年2月期3Q	101,462,977 株	26年2月期	101,462,977 株
② 期末自己株式数	27年2月期3Q	3,136 株	26年2月期	2,587 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年2月期3Q	101,460,178 株	26年2月期3Q	101,458,023 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、一部に弱さも見られましたが、政府や日本銀行による経済対策及び金融政策の効果もあり、緩やかな景気回復傾向にありました。また、国内消費環境では、アジアを中心とした訪日外国人の増加による消費の底支えが見られた一方、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要とその反動や天候不順の影響により、個人消費は不安定な状態が続きました。

このような状況の下、当社グループは、中期経営計画（平成26年度～平成28年度）の初年度として、計画に基づく事業展開を推進いたしました。

当第3四半期連結累計期間におきましては、仙台駅西口地区に「新たな商業施設」を出店することや名古屋パルコの隣接区画へ建設を予定している新規ビルへ出店することを決定し、都心部での事業拠点拡大を図りました。10月にゼロゲート業態として編集型最大規模の名古屋ゼロゲートを、11月には福岡パルコ新館を開業し、いずれも街場の大きな話題を獲得いたしました。福岡パルコ新館は、「コンフォータブル」なシーンを提供する「場」の創造をテーマに編集・演出するとともに、独自に開発したスマートフォンアプリを活用するなど、パルコ業態の最新版がマーケットに受け入れられ、好調なスタートとなりました。平成27年春の福岡パルコ本館隣接ビルへの増床を見据えて、引き続き2館の回遊性を強化し、九州商業の中心である福岡天神エリアの魅力の向上に努めてまいります。

また、既存パルコ店舗では、各店においてテーマ性を持った提案型の改装や〈PARCOカード〉を軸とした販売促進策を積極的に推進したほか、専門店事業でも新規出店や販売促進策を強化いたしました。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は1,973億円（前年同期比101.7%）、営業利益は88億34百万円（前年同期比101.6%）、経常利益は88億11百万円（前年同期比102.9%）、四半期純利益は50億45百万円（前年同期比105.2%）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

<ショッピングセンター事業>

ショッピングセンター事業の売上高は1,782億61百万円（前年同期比100.7%）、営業利益は82億77百万円（前年同期比98.7%）となりました。

既存パルコ店舗につきましては、引き続き「都心型店舗（※1）」、「コミュニティ型店舗（※2）」の2種類の進化と差異化を図るべく、業態革新を推進いたしました。

改装につきましては、都心型店舗を中心に「コアターゲットの拡大」、「ライフスタイル提案の強化」、「インバウンド需要への対応」をテーマに推進いたしました。当第3四半期連結累計期間で全店計約41,000㎡を改装し、改装ゾーンの売上高前年同期比は全店計121.8%と大きく伸ばいたしました。主な改装は次のとおりです。

[渋谷パルコ]

ファッションとカルチャーの融合、グローバルな情報発信をテーマに、先進的で話題性のあるショップを積極的に導入いたしました。春の改装では、パート1の2階に旬なファッションブランドを導入したほか、3階には有力セレクトショップを導入いたしました。秋の改装では、パート1の1階に先進的なモードファッションの新業態ショップなどを導入いたしました。

[池袋パルコ]

開業20周年を迎える「P⁺PARCO」（ピーダッシュパルコ）では、秋の改装において、「都市型エンタテインメント」をテーマに、売場の約30%を刷新するリニューアルを実施いたしました。ネット配信スタジオやアニメのキャラクターグッズショップなど、デジタルネイティブと呼ばれる世代の新しい消費ニーズに対応したショップを多数導入いたしました。

[名古屋パルコ]

開業25周年の西館・東館を中心に、10月の名古屋ゼロゲートの開業を見据え、大規模なリニューアルを実施いたしました。秋の改装では、雑貨・化粧品・カフェの編集フロアである西館地下1階「スタイルデリ」を東館地下1階まで拡大したほか、西館2階にはオーガニック食材の販売やこだわりのメニューを提供する新業態レストランを導入するなど、全88ショップを刷新し、ファッションだけではなく多様なライフスタイルを提案いたしました。

(※1) 都心型店舗（札幌パルコ、仙台パルコ、池袋パルコ、渋谷パルコ、静岡パルコ、名古屋パルコ、広島パルコ、福岡パルコ）

(※2) コミュニティ型店舗（宇都宮パルコ、浦和パルコ、新所沢パルコ、千葉パルコ、津田沼パルコ、ひばりが丘パルコ、吉祥寺パルコ、調布パルコ、松本パルコ、大津パルコ、熊本パルコ）

営業企画につきましては、消費税増税前の需要を見込み、3月に<PARCOカード>会員に対する優待企画の強化を実施したほか、新規会員獲得が好調に推移したことに加え、ロイヤリティの高い優良顧客であるクラスS会員が増加したことなどにより、<PARCOカード>取扱高が前年同期比108.5%と伸びました。また、9月より新たに、全国百貨店共通商品券の取り扱いを開始し、顧客利便性の向上を図りました。

さらに、増加する訪日外国人に対する施策として、インバウンド需要の高い一部の都心型店舗を中心に、外国人に人気の高いショップの導入や販売促進策を積極的に実施いたしました。札幌パルコでは、タイ・バンコクの商業施設と相互送客企画を実施し、新たな顧客の取り込みを強化いたしました。

また、前年に引き続き、独自の先行的ICT(※3)活用を積極的に推進いたしました。5月には、パルコショップブログに、新たな機能である「取置き予約」と「Eコマース」を付加した新サービス『カエルパルコ』の運用を開始し、都心型店舗を中心に対応店舗を拡大いたしております。また、10月には、パルコ公式スマートフォンアプリ『POCKET PARCO』をリリースいたしました。本アプリでは、お客様一人ひとりにパーソナライズされた商品の情報を表示する機能などを導入し、お客様に更なるショッピングの楽しさ、便利さを提供いたしております。

(※3) ICTとはInformation and Communication Technologyの略であり、情報処理及び情報通信に関連する諸分野における技術・サービスなどの総称であります。

<専門店事業>

専門店事業の売上高は140億8百万円(前年同期比107.6%)、営業利益は2億26百万円(前年同期比147.4%)となりました。

株式会社ヌーヴ・エイにつきましては、都市部の新規商業施設に出店した新店の業績が好調に推移したことに加え、既存店の業績も伸長し、売上高、営業利益ともに前年同期実績を上回りました。

<総合空間事業>

総合空間事業の売上高は144億22百万円(前年同期比106.4%)、営業利益は2億61百万円(前年同期比102.0%)となりました。

株式会社パルコスペースシステムズにつきましては、既存大手クライアントからの受注が減少したものの、内装工事及び電気工事の新規クライアントを獲得できたことや、ホテルなどのビルメンテナンス事業の拡大などにより、売上高、営業利益ともに前年同期実績を上回りました。

<その他の事業>

その他の事業の売上高は52億40百万円(前年同期比118.4%)、営業利益は1億18百万円(前年同期営業損失67百万円)となりました。

株式会社パルコのエンタテインメント事業につきましては、演劇で、三谷幸喜作・演出『紫式部ダイアリー』などの話題作を上演したことに加え、海外からの招聘ミュージカル『SINGIN' IN THE RAIN～雨に唄えば～』が好評を博し、記録的な動員を獲得いたしました。また、11月には、ライブハウス「クラブクアトロ」の飲食業態として、ミュージック・カフェ&バー「クアトロラボ」を開業し、新規ビジネスの開発に取り組みました。さらに、人気キャラクターをモチーフにした情報発信カフェの動員好調などにより、売上高、営業利益ともに前年同期実績を上回りました。

また、株式会社パルコ・シティにつきましては、Webコンサルティング事業において外部売上高が伸びましたが、前年同期の大型受注の反動により、売上高、営業利益ともに前年同期実績を下回りました。

(注) セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して139億55百万円増加し、2,347億12百万円となりました。主な要因は、受取手形及び営業未収入金並びに福岡パルコ新館の新築による有形固定資産の増加などによるものであります。当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して107億55百万円増加し、1,226億89百万円となりました。主な要因は、支払手形及び営業未払金の増加などによるものであります。純資産は、前連結会計年度末と比較して31億99百万円増加し、1,120億23百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期連結会計期間末では、現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比較して18億99百万円増加し、54億29百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益83億51百万円に非資金項目となる減価償却費や特別損益項目等を調整し、115億44百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、54億76百万円の支出となりました。これは、主に福岡パルコ新館の新築による有形固定資産の取得による支出などによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、42億4百万円の支出となりました。これは、主に有利子負債の返済や配当金の支払いなどによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年2月期の通期連結業績予想につきましては、平成26年10月6日に発表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,529	5,601
受取手形及び営業未収入金	7,581	17,013
商品及び製品	2,984	3,637
仕掛品	278	371
原材料及び貯蔵品	40	37
その他	7,987	4,543
貸倒引当金	△5	△11
流動資産合計	22,396	31,192
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	121,524	124,497
減価償却累計額	△77,395	△79,388
減損損失累計額	△1,131	△642
建物及び構築物 (純額)	42,997	44,466
信託建物及び構築物	17,667	21,690
減価償却累計額	△3,339	△4,010
信託建物及び構築物 (純額)	14,327	17,679
機械装置及び運搬具	845	892
減価償却累計額	△645	△675
機械装置及び運搬具 (純額)	200	217
信託機械装置及び運搬具	16	167
減価償却累計額	△9	△11
信託機械装置及び運搬具 (純額)	7	156
その他	5,865	6,406
減価償却累計額	△4,469	△4,660
減損損失累計額	△137	△59
その他 (純額)	1,257	1,686
信託その他	138	179
減価償却累計額	△84	△96
信託その他 (純額)	53	82
土地	43,803	43,805
信託土地	46,992	47,069
建設仮勘定	4,950	4,909
有形固定資産合計	154,590	160,072
無形固定資産		
借地権	10,949	10,969
その他	898	1,062
無形固定資産合計	11,847	12,032
投資その他の資産		
投資有価証券	2,886	2,347
敷金及び保証金	27,299	27,262
その他	1,945	2,010
貸倒引当金	△209	△205
投資その他の資産合計	31,921	31,414
固定資産合計	198,360	203,520
資産合計	220,757	234,712

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	15,564	24,217
短期借入金	14,719	7,579
未払法人税等	1,216	1,882
引当金	1,626	1,023
その他	7,904	21,512
流動負債合計	41,030	56,214
固定負債		
長期借入金	35,705	31,597
引当金	1,788	1,766
受入保証金	32,740	32,233
その他	668	876
固定負債合計	70,902	66,474
負債合計	111,933	122,689
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,367	34,367
資本剰余金	35,129	35,129
利益剰余金	38,781	42,001
自己株式	△2	△2
株主資本合計	108,276	111,495
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	671	617
為替換算調整勘定	△124	△89
その他の包括利益累計額合計	547	528
純資産合計	108,823	112,023
負債純資産合計	220,757	234,712

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
売上高	194,069	197,300
売上原価	164,733	167,382
売上総利益	29,335	29,918
営業収入	2,886	3,163
営業総利益	32,221	33,081
販売費及び一般管理費	23,523	24,247
営業利益	8,698	8,834
営業外収益		
受取利息	41	33
受取配当金	34	33
雑収入	260	293
営業外収益合計	336	360
営業外費用		
支払利息	394	329
雑支出	80	52
営業外費用合計	475	382
経常利益	8,560	8,811
特別利益		
投資有価証券売却益	10	99
その他	0	1
特別利益合計	10	101
特別損失		
固定資産除却損	357	501
減損損失	23	53
店舗閉鎖損失	97	—
その他	2	6
特別損失合計	481	561
税金等調整前四半期純利益	8,089	8,351
法人税等	3,295	3,305
少数株主損益調整前四半期純利益	4,793	5,045
四半期純利益	4,793	5,045

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,793	5,045
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	502	△53
為替換算調整勘定	21	32
持分法適用会社に対する持分相当額	5	2
その他の包括利益合計	529	△18
四半期包括利益	5,323	5,026
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,323	5,026
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成26年3月1日 至 平成26年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	8,089	8,351
減価償却費	4,365	4,321
減損損失	23	53
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△536	△529
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	30	△21
受取利息及び受取配当金	△76	△66
支払利息	394	329
固定資産除売却損益 (△は益)	119	166
投資有価証券売却損益 (△は益)	△10	△99
店舗閉鎖損失	97	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△8,117	△9,431
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△765	△741
仕入債務の増減額 (△は減少)	6,698	8,652
その他の資産・負債の増減額	1,860	3,629
その他	73	31
小計	12,246	14,645
利息及び配当金の受取額	76	66
利息の支払額	△464	△428
店舗閉鎖に伴う支払額	—	△107
賃貸借契約解約に伴う支払額	△999	—
法人税等の支払額	△5,458	△2,631
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,400	11,544
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△171
有形固定資産の取得による支出	△32,558	△8,142
投資有価証券の取得による支出	△56	△2
投資有価証券の売却による収入	238	559
敷金及び保証金の差入による支出	△559	△852
敷金及び保証金の回収による収入	8,580	3,812
受入保証金の増減額 (△は減少)	△235	△282
その他	△141	△397
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24,731	△5,476
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△6,000
コマーシャル・ペーパーの増減額 (△は減少)	5,999	8,999
長期借入れによる収入	15,500	3,300
長期借入金の返済による支出	△7,259	△8,550
社債の償還による支出	△500	—
自己株式の純増減額 (△は増加)	9	△0
配当金の支払額	△1,826	△1,826
その他	△130	△126
財務活動によるキャッシュ・フロー	11,794	△4,204
現金及び現金同等物に係る換算差額	29	36
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△7,506	1,899
現金及び現金同等物の期首残高	10,463	3,529
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,956	5,429

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピング センター 事業	専門店事業	総合空間 事業	その他の 事業	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高(注) 1							
(1) 外部顧客への売上高	176,961	8,206	7,738	4,049	196,955	—	196,955
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	4,807	5,815	378	11,001	△11,001	—
計	176,961	13,014	13,554	4,427	207,957	△11,001	196,955
セグメント利益又は損失(△)	8,384	153	256	△67	8,727	△28	8,698

(注) 1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△28百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成26年3月1日至平成26年11月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピング センター 事業	専門店事業	総合空間 事業	その他の 事業	計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高(注) 1							
(1) 外部顧客への売上高	178,256	9,108	8,186	4,912	200,463	—	200,463
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	4	4,899	6,236	327	11,468	△11,468	—
計	178,261	14,008	14,422	5,240	211,932	△11,468	200,463
セグメント利益	8,277	226	261	118	8,883	△49	8,834

(注) 1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益の調整額△49百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。